

所属・資格 心理学科・教授

申請者氏名 山口 義枝

| | | |
|---|---|---|
| 研究課題 | | 対人交流における共感不全がつくる否定的影響（3） |
| 報告の概要 | 研究目的 および 研究概要 | 対人関係における共感不全が、個人の精神的健康に与える影響を継続して研究している。平成31年度の継続課題としては、共感不全による発達障害等への影響を検討した。自閉症スペクトラム障害をもつ人は、生得的に他者への共感的理解が難しいことが推測されている。このため、対人交流において他者行動を意味づける際に、その不足分を学習による知的推論で補っていると言われている。そこで、発達障害をもつ人の対人交流における意味づけの特徴を検討した。 |
| | 研究の結果 | 心理面接の実践、および関連研究において、発達障害をもつ人は定型発達の人と比べ、対人交流において、周囲の人が自分に対し、意図的に不利益を起こさせる行動を行っているという意味づけをする傾向が見出された。これは、生得的に他者の感情を共感的に理解することが難しいという特徴から生じるのではないかと考えられた。 この知見より、発達障害をもつ人と関わる際には、否定的意味づけが起きる可能性を常に念頭に置く必要性が確認された。また、このことは発達障害をもつ人の対人交流において、有効な支援の手掛かりを与えてくれる可能性を示唆している。 |
| | 研究の考察・反省 | 発達障害は、個人差の大きな障害であると言われている。それは、生物的な個体差と、学習で獲得した社会的技能の違いが、個人の対人交流に大きな違いを作るからである。そのため、数事例から障害の特徴を決めつけて一般化することは現段階では早計だと言える。しかし、対人交流における負担感が定型発達の人と比べて大きいという可能性を考えながら、心理面接を実践することは重要であろうと考える。 |
| 研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 | ※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 | |
| 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者 | 共著論文：諏訪百合子・山口義枝 大学生の ASD 傾向と対人関係の意味づけの検討—ASD の受身性に焦点を当てて—、日本大学文理学部心理臨床センター 紀要、第 17 巻第 1 号、2020 年 3 月 日本大学文理学部心理臨床センター | |